

鳥人間コンテスト2018へ挑戦！ ～“木工の街 大川”をPRするため青空へ～

去る7月28日に滋賀県彦根市にて鳥人間コンテスト2018が開催され、ここ「木工の街 大川」の若手職人達が集い、「木のきもち号」と名付けられた翼長約22メートル、全長約6メートル、重量約55キログラムの木製飛行機を制作し、3回目の出場を果たした。台風第12号の影響により開催が危ぶまれ、2日目29日の「人カプロペラ機部門」は天候が悪く部門不成立になってしまったが、1日目28日の「滑空機部門」は部門成立し、無事に大空へと飛び立つことが出来た。

「オール大川」で参加した同コンテストには大川商工会議所青年部をはじめ、協同組合福岡・大川家具工業会、大川木材事業協同組合、大川化粧合板工業協同組合、大川建具事業協同組合等の組合青年部の有志達が参加している。

2012年の初挑戦は約73メートルを飛んだが、翌13年は約22メートルの「ほぼ墜落状態」で失敗。翼の接合に金属部品を使ったことが重量増加につながったため、今回は強度のあるヒノキと、キリの集成材を桁に使い、余分をそぎ落とす「肉抜き」で軽量化。表面には和紙を貼った突き板を使用した。翼を接合する部品は繊維強化プラスチック (FRP) だが、その他の材料はほぼ木材。2枚の垂直尾翼には大川組子を装飾して

いるという。製作部会長の酒見氏（福岡・大川家具工業会青年部）は「本格的に飛行機制作を始めたのは5月初旬から。各自仕事を終えた後に集まり、毎日夜中まで作業を続けた」と語る。

今回は滑空機部門の全20チームでの争いとなった。チーム所在地が同じ福岡県から出場する九州大学も含み、出場回数が二桁の強豪チームも参加するなか、結果は29.5メートル程で着水してしまった。台風の影響でコンディションも悪く、尾翼がプラットホームに接触してしまったことが要因だった。しかし、他チームと違い木製に拘った飛行機は、来場者及び視聴者に「木工の街 大川」を強く印象付けたことだろう。



尾翼に繊細に組み込まれた組子



川口小学校の運動場でのテスト飛行



7月例会「鳥人間コンテスト決起集会」



鳥人間コンテスト2018当日